

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								4.0
Q1 室内環境			0.40					3.4
1 音環境		3.0	0.15	2.7	1.00			2.9
1.1 騒音		3.0	0.40	3.0	0.40			
1 室内騒音レベル		3.0	1.00	3.0	1.00			
2 設備騒音対策		-	-	-	-			
1.2 遮音		3.0	0.40	3.3	0.40			
1 開口部遮音性能		3.0	0.40	3.0	0.30			
2 界壁遮音性能	病室壁はGWt50mmを充填しDr-50の遮音性能を確保	3.0	0.60	4.0	0.30			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	0.20			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	0.20			
1.3 吸音		3.0	0.20	1.0	0.20			
2 温熱環境		3.1	0.35	3.0	1.00			3.1
2.1 室温制御		3.3	0.50	3.0	0.50			
1 室温		3.0	0.38	3.0	0.57			
2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-			
3 外皮性能		3.0	0.25	3.0	0.43			
4 ゾーン別制御性	ゾーン毎に冷暖房の切替が可能。また冷暖フリータイプを採用	4.0	0.38	-	-			
5 温度・湿度制御		-	-	-	-			
6 個別制御		-	-	-	-			
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-			
8 監視システム		-	-	-	-			
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	0.20			
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	0.30			
3 光・視環境		3.4	0.25	4.4	1.00			3.7
3.1 昼光利用		4.6	0.30	4.2	0.30			
1 昼光率	2層吹き抜け全面ガラスの自然光あふれるかわせみホール	5.0	0.60	5.0	0.60			
2 方位別開口		-	-	-	-			
3 昼光利用設備	2層吹き抜け全面ガラスの自然光あふれるかわせみホール	4.0	0.40	3.0	0.40			
3.2 グレア対策		3.0	0.30	5.0	0.30			
1 照明器具のグレア		-	-	-	-			
2 昼光制御	ブラインド及び庇により昼光を制御	3.0	1.00	5.0	1.00			
3 映り込み対策		-	-	-	-			
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	0.15			
3.4 照明制御	ベッド単位で照明制御が可能	3.0	0.25	5.0	0.25			
4 空気環境		4.0	0.25	3.7	1.00			3.9
4.1 発生源対策		4.0	0.50	4.0	0.63			
1 化学汚染物質	JIS・JAS規格F の建材を全面的に採用	4.0	1.00	4.0	1.00			
2 アスベスト対策		-	-	-	-			
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-			
4 レジオネラ対策		-	-	-	-			
4.2 換気		3.5	0.30	3.3	0.38			
1 換気量	換気量を30m3/人として算定	4.0	0.50	4.0	0.33			
2 自然換気性能		-	-	3.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33			
4 給気計画		-	-	-	-			
4.3 運用管理		5.0	0.20	-	-			
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-			
2 喫煙の制御	全館禁煙	5.0	1.00	-	-			
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-			4.3
1 機能性		4.3	0.40	4.6	1.00			4.3
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	5.0	0.60			
1 広さ・収納性	個室:18.7m2、4床室:8.9m2/1床	-	-	5.0	1.00			
2 高度情報通信設備対応		-	-	-	-			
3 バリアフリー計画	利用円滑化誘導基準に適合	4.0	1.00	-	-			
1.2 心理性・快適性		5.0	0.30	4.0	0.40			
1 広さ感・景観		-	-	3.0	0.50			
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-			
3 内装計画	内観パースとイメージボードによる合意形成	5.0	1.00	5.0	0.50			
1.3 維持管理		4.0	0.30	-	-			
1 維持管理に配慮した設計	床、壁に汚れにくく水拭き清掃性の高い仕上げ材を採用	4.0	0.50	-	-			
2 維持管理用機能の確保	天井隠蔽機器の点検口は600×600以上	4.0	0.50	-	-			
3 衛生管理業務		-	-	-	-			
2 耐用性・信頼性		4.5	0.31	-	-			4.5
2.1 耐震・免震		5.0	0.48	-	-			
1 耐震性	剛性を高めることで規定より50%増の耐震性を確保	5.0	0.80	-	-			
2 免震・制振性能	ゴムと滑り支承による免震構造を採用	5.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.9	0.33	-	-			
1 躯体材料の耐用年数	告示の等級3相当の品質を確保	5.0	0.23	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.23	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	浴室、厨房、外部露出ダクトの90%以上にガルバリウム使用	5.0	0.08	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	主要な用途(給水VLP、汚水雑排水VP、通気VP)にB以上を使用	5.0	0.15	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-			

2.4	信頼性			4.6	0.19	-	-	
	1	空調・換気設備	複合熱源システムによるリスク分散、免震構造、配管フレキ	5.0	0.20	-	-	
	2	給排水・衛生設備	節水型器具採用、非常用排水槽設置、井水・雨水利用	5.0	0.20	-	-	
	3	電気設備	発電機・医療用無停電電源設備を設置、電源設備の地上階設置	5.0	0.20	-	-	
	4	機械・配管支持方法	機械・配管支持方法を耐震クラス・Aで対応	4.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備	電話網、PHS網、LAN(機器と配管)を地上階に設置・敷設	4.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性				4.2	0.29	3.6	1.00	4.0
3.1 空間のゆとり				5.0	0.31	4.2	0.50	
1	階高のゆとり	階高は病室階3.9m、その他4.0m以上	5.0	0.60	5.0	0.60		
2	空間の形状・自由さ	低層部の平面形状はほぼ矩形	5.0	0.40	3.0	0.40		
3.2 荷重のゆとり				5.0	0.31	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性				3.0	0.38	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-		
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-		
3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-		
4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-		
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-		
6	バックアップスペース		3.0	0.22	-	-		
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	4.5
1 生物環境の保全と創出			敷地面積の20%を緑化し、更に中低木を多く植栽	4.0	0.30	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮			上層部セットバックによる圧迫感の低減	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮				4.5	0.30	-	-	4.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	都市と建物をつなげる500m2以上の広大なキャノピー	5.0	0.50	-	-		
3.2	敷地内温熱環境の向上	冷却塔及び室外機、高温排熱排出部(煙突)は全て屋上設置	4.0	0.50	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	4.1
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	4.4
1 建物の熱負荷抑制			PAL:219.4、CEC/AC:1.89、/V:0.61、/L:0.48、/HW:1.59	5.0	0.30	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.5	0.20	-	-	3.5
2.1	自然エネルギーの直接利用	2層吹き抜け全面ガラスの自然光あふれるかわせみホール	4.0	0.50	-	-		
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-		
3 設備システムの高効率化			ERR値 15%	4.5	0.30	-	-	4.5
集合住宅以外の評価(ERRによる評価)			ERR=26.8%	4.5	-	-	-	
集合住宅の評価				3.0	-	-	-	
4 効率的運用				4.5	0.20	-	-	4.5
4.1	モニタリング	BEMSによるモニタリング	4.0	0.50	-	-		
4.2	運用管理体制	BEMSによるエネルギー消費量の目的値の設定	5.0	0.50	-	-		
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	4.3
1 水資源保護				3.8	0.15	-	-	3.8
1.1	節水	節水型器具の利用	4.0	0.40	-	-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.6	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	雨水利用	4.0	0.67	-	-		
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減				4.8	0.63	-	-	4.8
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.07	-	-		
2.2	既存建築躯体等の継続使用	既存建物の一部を雨水貯水槽として利用	5.0	0.25	-	-		
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	基礎に高炉セメントを使用	5.0	0.21	-	-		
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	タイルカーペット、ビニル床タイル、磁器質タイル	5.0	0.21	-	-		
2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-		
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	軽鉄下地を採用し躯体と内装材、内装材と設備が分離容易	5.0	0.25	-	-		
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.2	0.22	-	-	3.2
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.3	0.68	-	-	
1	消火剤	不活性ガス消火剤を使用	4.0	0.33	-	-		
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.33	-	-		
3	冷媒		3.0	0.33	-	-		
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮			ライフサイクルCO2排出量が、一般的な建物に比べ75%	3.9	0.33	-	-	3.9
2 地域環境への配慮				3.6	0.33	-	-	3.6
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			敷地面積の20%を緑化	4.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.7	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-		
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-		
3	交通負荷抑制	十分な駐輪スペースを確保	5.0	0.25	-	-		
4	廃棄物処理負荷抑制	院内の清浄を保つために分別回収器を多数設置	4.0	0.25	-	-		
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-		
2	振動		-	-	-	-		
3	悪臭		-	-	-	-		
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制				3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-		
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-		
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-		
3.3 光害の抑制				3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-		
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-		